

2030年の愛知の将来展望と起こりうる事象・リスク

◆未曾有の超高齢社会・人口減少の進行

(展望)

- 本県は2015年の7,470千人をピークに**人口減少社会**に。2030年は7,213千人。
- 高齢者は33%増(2010⇒2030年)。2030年の**高齢化率**は27.7%で全国(31.6%)よりは低い水準。
- 晩婚化、未婚化の影響等で**少子化**が進行。生産年齢人口は約10%減(2010年⇒2030年)
- 未婚化や高齢者の増加などにより、**単身世帯数**が増加
- 団塊の世代が80歳以上になり、支援が必要な高齢者が大幅に増加。
- 医療の進歩などにより**寿命**がさらに延び、人生90年時代に。

<年齢3区分別人口の見通し>

単位：千人、()は構成比：%

	総人口	0~14歳	15~64歳	65歳以上
2010年	7,411	1,066 (14.4%)	4,839 (65.3%)	1,506 (20.3%)
2020年	7,440	971 (13.1%)	4,561 (61.3%)	1,908 (25.6%)
2030年	7,213	835 (11.6%)	4,383 (60.8%)	1,995 (27.7%)

国立社会保障・人口問題研究所推計

(起こりうる事象・リスク)

- 高齢者が社会の多くを占める中で、世代間格差への不満など**若者の閉塞感**が高まる。
- 生産年齢人口の減少が経済成長の押し下げ圧力に。経済・財政の持続可能性への不安が高まる。
- 単身世帯の増加により、**地域社会から孤立**する人が増加。
- 都市部でも空き家が虫食い状に発生。治安の悪化、公共交通や商業機能の衰退などが発生。
- コミュニティの崩壊、ニュータウン問題など、地方だけでなく**都市部の高齢化の問題**も深刻化。

◆グローバル経済の進展

(展望)

- アジアが最大の経済圏**に。中国は2025年頃にGDPでアメリカを上回り世界最大の経済大国に。
- 日本を含む先進国の成長力が低下。世界経済の中での**日本のプレゼンス**は徐々に**低下**。

<世界経済のGDPシェア>

	日本	中国	インド	アメリカ	ヨーロッパ主要国
2009年	8.8%	8.3%	2.2%	24.9%	17.7%
2030年	5.8%	23.9%	4.4%	17.0%	10.2%

内閣府 世界経済の潮流(2011年)

- 世界経済は規模を拡大しつつ、**自由貿易協定**や**経済連携協定**の進展等により相互依存関係を深化
- 世界のフラット化**が進展。ICTの進展などにより、世界が同じ条件で競争する時代に。

(起こりうる事象・リスク)

- 新興国の発展により、輸出競争力が維持できなければ、**経済活力**が低下。
- 企業は、拡大する新市場の獲得、生産体制の最適化を求めて世界展開を加速する中、立地環境が劣ることとなれば、**産業の空洞化**が進む。
- 知的価値を生み出す高度人材、グローバル人材のニーズが高まる一方、不安定・低賃金な業務に従事せざるを得ない層が増加し、**雇用の二極化**が深刻化していく。
- ホワイトカラー層の仕事も二極化し、高度な専門性・スキルを必要としない職は新興国・途上国に流出。
- 企業が流動性の高い雇用形態を求める傾向が続き、終身雇用や年功序列型賃金といった日本型雇用慣行の見直しが進む。
- TPPなど貿易・投資の自由化が進展する中で、手立てを講じなければ**農業の衰退**が加速していくおそれ。

◆災害リスクの増大と環境・エネルギーリスク

(展望)

- 南海トラフの巨大地震**がいつ起きてもおかしくない状況。
※南海トラフ全域でマグニチュード8以上の巨大地震が30年以内に起きる確率：60~70%
- 高度経済成長期に造られた多くの**社会資本**が**更新時期**を迎え、老朽化が進む。
- 新興国の経済成長や世界的な人口増加により、**化石燃料**や**食料**、**水資源**の獲得競争が激化。

(起こりうる事象・リスク)

- 巨大地震**への備えが進まなければ、**甚大な被害**に。
※南海トラフの巨大地震による内閣府の被害想定〔愛知県における最悪ケース〕
死者数約23,000人、建物被害(全壊・焼失棟数)約388,000棟、被害額約30.7兆円
- 社会資本の更新が遅れば、**インフラの機能不全**、**事故や大災害**を引き起こす可能性。
- 新興国の経済発展や化石燃料への依存に伴う二酸化炭素の排出量増加が**地球温暖化**をさらに進行させるおそれ。それに伴う生態系、農業、健康への悪影響や異常気象の多発、海面上昇による災害時のリスクの拡大。中国など大陸からの越境汚染も深刻化するおそれ。
- 食料**や**燃料**の供給力の低下や、**資源価格高騰**によるインフレの発生が、人々の生活に支障を及ぼすとともに、産業県である愛知の経済にも深刻な影響を与えるおそれ。

◆リニア中央新幹線開業のインパクト

(展望)

- 2027年にリニア中央新幹線の東京-名古屋間が開業。東京-名古屋間が40分で結ばれることにより、交流人口が増大。**5千万人の巨大な大都市圏**が形成。
- 名古屋からの**2時間交流圏**が、現況の8都府県から15都府県に**大幅に増加**(茨城、栃木、埼玉など)。新潟や仙台なども3時間圏に。
- これまで比較的結びつきの少なかったリニア沿線の**長野南部**や**山梨**などとの交流が拡大。
- 東海道新幹線がローカル線化**。東海道新幹線沿線地域(三河安城、豊橋)の位置づけが変わる。

(起こりうる事象・リスク)

- 東京への一極集中**がさらに高まり、企業や人などの東京への流出がさらに加速する可能性。
- ほぼ同時期の開業が見込まれる北陸新幹線などとも相まって、名古屋は**リニア大都市圏の西側ターミナル**として、広域的な吸引力が大きく拡大。
- 名古屋中心部の再開発が進み、**名古屋の求心力が高まる**一方で、豊橋など**愛知県内の各都市は名古屋への依存**が高まるおそれ。

愛知の強み・弱みの分析と目指すべき愛知の将来像の検討

	愛知の強み	愛知の弱み	＜愛知の将来像を考える上での視点＞
県民生活	<ul style="list-style-type: none"> ○大都市部としては、同居率が高く、家族や地縁社会が残る ○高齢化のスピードが遅く、また、大都市部としては出生率も高いため、比較的バランスの良い人口構成を維持できる ○雇用の二極化が進む中であって、比較的中間層が厚い（優良なモノづくり企業が多く、例えば工業高校を卒業して県内企業に就職した人が比較的高い収入が得られる） 	<ul style="list-style-type: none"> ●全国に比べ、高齢化のスピードは遅いものの、大都市部のため、高齢者数は今後大きく増加 ●出産・育児期の女性の労働力率が低い ●外国人の定住化が進む中で、日本語や生活環境になじめない県民が増加 ●排他的と言われる県民性 ●交通事故、犯罪の多さ 	<ul style="list-style-type: none"> ◆中間層が厚い社会にすべきではないか ◆行き過ぎた個人主義に陥ることなく、家族・地域における責任を尊重する社会にすべきではないか ◆「人生 90 年時代」に向け、健康寿命を伸ばし、安心して生きられる社会を作っていくべきではないか。
産業経済	<ul style="list-style-type: none"> ○多額の貿易黒字を稼ぎ出す輸出競争力 ○研究開発から最終組み立てに至るモノづくりの機能をフルセットで備える ○モノづくり現場を支える優れた技術や技能の蓄積 ○全国に比べて比較的若い人口構成 ○交通条件など優れた企業立地環境 ○大都市近郊という地理的な利点を生かした多様な農林水産物の生産力 	<ul style="list-style-type: none"> ●為替や世界経済の動向に左右されやすい産業構造 ●自動車産業に依存し、情報・サービスなどの都市型産業が弱い ●労働力の確保が困難 ●工業用地不足や地価の高さ ●起業率の低さ ●農林水産物のブランド力の弱さ 	<ul style="list-style-type: none"> ◆フルセット、すり合わせ型のモノづくり力を生かしていくべきではないか。 ◆海外で稼ぐ力を強くするべきではないか。 ◆モノづくり人材の蓄積、比較的若い人口構成を生かしていくべきではないか。
県土基盤	<ul style="list-style-type: none"> ○日本の真ん中に位置し、東西の大都市圏にアクセスしやすい ○整備されつつある広域幹線道路ネットワーク ○名古屋中心から比較的アクセスの良い国際空港や港湾などのゲートウェイ機能を持つ ○大都市機能と豊かな自然を併せ持つ ○大都市名古屋と活力ある複数の拠点都市によりゆとりある圏域を形成 	<ul style="list-style-type: none"> ●完全 24 時間化が出来ていない空港など、世界の大都市に比べ規模や機能面で劣るゲートウェイ機能 ●空港、港湾利用後背圏の狭さ ●南海トラフ巨大地震等自然災害の脅威 ●弱い高次都市機能集積 ●地域独自の魅力や発信力の不足 ●車社会のため、大都市圏としては公共交通網が弱く、住宅地が郊外に拡散。 ●高度成長期に造られた社会資本の更新時期が一斉に到来 ●名古屋や西三河などの豊かな地域と過疎化が進む山間部や沿岸部などとの地域間格差 	<ul style="list-style-type: none"> ◆リニア大都市圏の西の拠点として、後背圏を拡大すべきではないか。 ◆低コストで、持続可能な次世代インフラへの更新を計画的に進めていくべきではないか ◆外から見た愛知のブランド、存在感を確立すべきではないか。

対応すべき主な課題と取組の視点・問題意識

県民生活

対応すべき主な課題

課題に取り組むにあたっての視点・問題意識

◆若者が希望を持ち、生涯キャリアアップしていける社会に向けて

- ・成長段階に応じたきめ細かな**キャリア教育**を実施し、子どもたちが**早い段階から自分の将来や進路を考**えるようにすべきではないか。
- ・社会が激しく変化し、また、終身雇用が崩れる中で、**転職しながらキャリアアップ**していくという働き方をも念頭に、**生涯にわたって人が能動的に学ぶ**ことができるような社会づくりを進めるべきではないか。
- ・家族を持つことや地域社会の一員として活動することの大切さを子どもの頃から教えるべきではないか。
- ・社会で自立して生きていくのに必要な基礎学力・体力を身につけさせることが大切ではないか。
- ・雇用の二極化が進む中であっても、**夫婦が共働きしやすい社会をつくり、中間層を拡大**していけるよう、ワークライフバランスや、男女共同参画社会の取組を一層進めていくべきではないか。

など

◆全員参加型の包容力ある社会に向けて

- ・障害のある人や外国人など、社会的に**弱い立場に置かれやすい人が、安心して生活**できる地域社会をどのようにつくっていくか。
- ・地域を構成する**様々な主体が支え合う互助や共助の社会**をどのようにつくっていくか。
- ・元気なシニア層を社会の重要な担い手と位置づけ、社会参加を促していくべきではないか。

など

◆「人生90年時代」の安心・安全社会に向けて

- ・**健康寿命を伸ばす**ためにどのような取組をしていくか。
- ・医療や介護、生活支援、予防など、**高齢者が住み慣れた家庭や地域で安心して暮ら**していけるような仕組みをどう作っていくか。
- ・高齢者を狙った犯罪や悪質商法、高齢者が巻き込まれる交通事故等への対策にどのように取り組んでいくか。

など

産業経済

対応すべき主な課題

課題に取り組むにあたっての視点・問題意識

◆「モノづくり」の力を活かした次世代の産業構造に向けて

- ・フルセット型の産業クラスターやすり合せ技術といった愛知の産業の強みをいかに維持・強化していくか。
- ・自動車産業と航空宇宙産業を産業の柱として重点支援していくべきではないか。その他、どのような産業を育てていくべきか。
- ・産業用地の確保、インフラ整備、規制改革など、企業の立地ニーズに応える環境をどうつくっていくか。
など

◆アジアの成長を取り込み、世界で稼げる地域に向けて

- ・企業の世界の成長市場への展開を積極的に支援しつつ、県内でのマザー機能、イノベーションの拠点性をどう高めていくか。
- ・国の経済連携協定の動向等を踏まえ、地域間の経済連携などにより輸出入や投資の拡大を図っていくべきではないか。
- ・アジアなど海外から高度人材の受け入れを拡大していくためにどうしていくか。
など

◆TPPなどに対応できる競争力ある農林水産業に向けて

- ・農地の集約化・大規模化や農家の経営革新、企業等を含めた担い手の多様化をどう進めていくか。
- ・愛知の豊かな地域資源や産業集積を生かし、6次産業化による新たなビジネス展開をどう進めていくか。
- ・豊かになったアジアの消費者などに対して、農産物の輸出をどのように展開していくか。
など

◆愛知の産業力を支え、グローバルに活躍する人づくりに向けて

- ・企業の海外展開に合わせ、海外で活躍できるグローバル人材をどう育成、確保していくか。
- ・社会経済や企業のニーズを踏まえ、普通高校と専門高校の役割をどう考え、専門教育はどうあるべきか。
- ・依然として国際化の壁となっている英語力をどう強化していくか。
- ・生産年齢人口が減少していく中で、女性や高齢者等の力をいかに活用し、労働力を確保していくか。
など

対応すべき主な課題

課題に取り組むにあたっての視点・問題意識

◆リニア大都市圏のゲートウェイにふさわしい圏域に向けて

- ・東京から名古屋に至る**5千万人のリニア経済圏の西側ターミナル**として、広域的な吸引力や拠点性をいかに高め、**首都圏へのストロー効果に対抗**していくか。(リニアが大阪まで開業する2045年が一つの区切り)
- ・リニア開通により結ばれる長野南部、山梨などとの新たな交流圏をどう形成していくか。
- ・リニア開通により**求心力が高まる名古屋都心部と県内各地域のバランス**をどのようにとっていくか。(交通体系の充実・強化を進めつつ、多核連携型圏域構造を維持・発展させていくか)
- ・リニアの開業に伴い、ひかり・こだま型の多頻度運行化が期待される東海道新幹線を活用し、静岡方面との交流拡大をどう図っていくか。
- ・国内外へのアクセス機能の強化や地域内交通の円滑化(高規格幹線道路におけるミッシングリンク(道路網の未整備部分)の解消等)をどう進めていくか。
- ・**インフラの整備・運営管理に民間活力を導入**し、効率化やサービスの向上を図っていくべきではないか。さらに、地域全体でのインフラ利用の効率化を図っていくべきではないか。

など

◆持続可能な社会、次世代のまちづくりに向けて

- ・高度経済成長期に整備された**インフラの長寿命化**をいかに効率的に行っていくか。
- ・**災害に強いインフラ**への更新をどう進めていくか。
- ・スマートシティなど、**エネルギー効率が高く環境負荷の少ないまちづくり**をどう進めていくか。
- ・本格的な少子高齢社会に向けて、**都市の機能集約化**などを進めるべきではないか。

など

◆愛知のブランド力の強化・魅力発信に向けて

- ・どういったところにターゲットを置き、**愛知のブランドの確立や魅力の発信**をしていくか。(この地域独自の食や文化、ポップカルチャーの活用など)
- ・トリエンナーレや**スポーツ大会の開催等**を活かし、地域魅力や知名度の向上をどう図っていくか。
- ・将来のリニア開業も見据え、どのような仕掛けで**国内外の観光客**を呼び込んでいくか。
- ・地域が持つ資源を活用しながら、世界の発展にどのように貢献し、存在感を示していくか。

など